

## 雪の日の喜び

最近の天気予報は実によく当たります。今朝の天気は昨日からわかっていたので、教頭や用務員が前日から雪かきのスタンバイをしました。私も「明日の朝は大丈夫かな」と心配をしながら、早めの出勤をするつもりでいました。

これが大人の思考です。雪となれば、寒さが一層厳しくなるとか、雪かきをしなければとか、早めに出勤しようだとか、日常生活の維持に意識が向かいます。年齢と共にそうなるようになって、私もいつの間にか大人の思考をするようになりました。

だからこそ、雪の日の小中学生を見るのを、私は楽しみにしています。今朝は必ず雪玉をもって登校する生徒が必ずいるはずと思い、登校する生徒を心待ちにしていました。

小学生がいつもの時間行列を作ってやってきました。予想通り、手にはしつかり雪玉を持っています。

「おっ、雪玉をもっているね。そんなに積もってた？」  
「雪をかき集めて作ったよ！」

うれしそうにそう言いながら、私に雪玉を見せてくれました。恐らく通学途中にも雪をかき集め、雪玉を更に大きくして小学校に連れて行くことでしょう。

中学生もやってきました。やはり手には雪玉が載っています。さらには、小さな雪だるまが手に載っている生徒もいました。私カメラを向けると、それに気付いてVサインを送ってくれました。辺り一面が寒さで凍えているのに、小中学生は元気に寒さを楽しんでいるかのように感じられました。



雪を連れて登校する中学生

雪玉や雪だるまだけではありません。傘を差さずに雪の中を登校し、自分が雪化粧して登校する生徒。傘の上に積もった雪をはらわず、「積もった雪を学校で落とします！」と目標を持って登校する生徒。雪の中をあえて自転車で果敢に突っ切ってきた生徒。そういう生徒の姿を見ると、自分が忘れかけていたものを思い出せるような気がしてうれしくなってきました。

学校に戻ると、生徒玄関の前に小さな雪だるまが二つ、中に入れてもらえずに座っていました。これにも心が温まりました。雪を楽しみながら、雪は中に持ち込まないという判断ができること、当たり前前のようにですが、ここに子どもと大人が同居する中学生を感じます。多くの生徒が通っていたのに、小さな雪だるまが無事に座っていたことにも心が温まりました。(十二月十六日 記)

